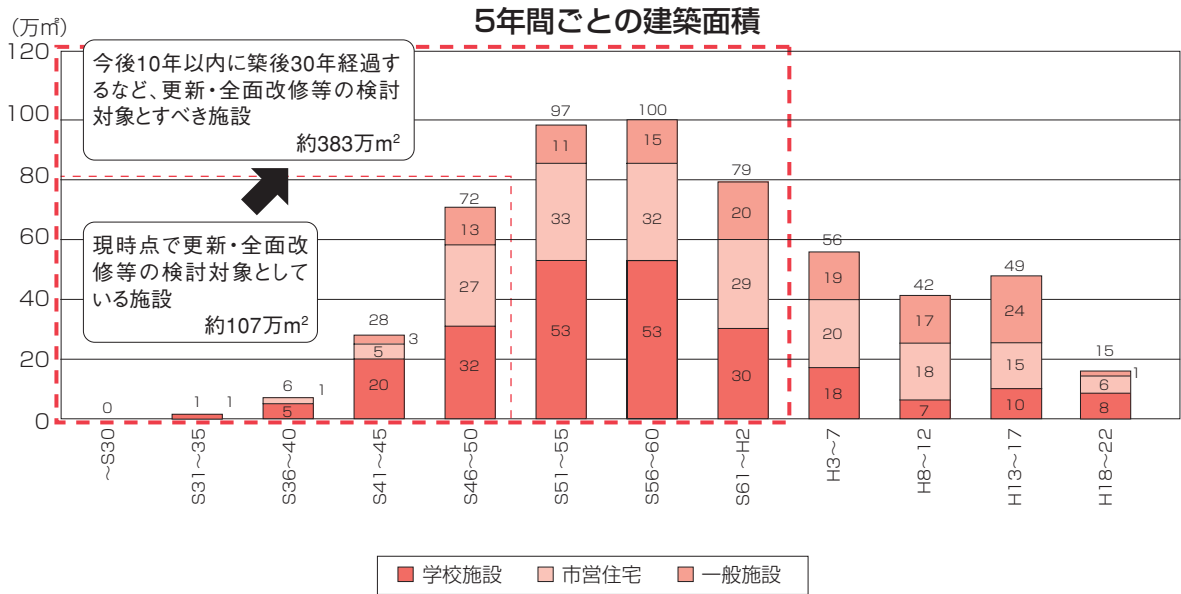


3 市有建築物における保全、長寿命化などの取り組み

市有建築物の現状

札幌市では、政令指定都市移行後、都市の拡大に合わせて、集中して市有建築物の整備を進めてきました。これらの市有建築物の老朽化が進み、今後一斉に更新時期を迎えることが想定されます。



※建築面積は、施設ごとに千㎡単位で四捨五入しているため、施設ごとの数値と合計数値とが合致しない場合がある。

今後の取り組み

第3次札幌新まちづくり計画では、今後の市有建築物の更新需要の増大を踏まえ、適切な長寿命化、財政需要の平準化などの取り組みを計画的に進めていきます。

○市有建築物の更新

計画的な保全による長寿命化を図る一方、施設用途や耐震性能等を考慮しながら、老朽化した市有建築物の更新等を順次進めていきます。

○市有建築物の長寿命化

目標耐用年数を踏まえた計画的な保全を行い、更新サイクルの長期化や更新時期の分散による財政需要の平準化に、引き続き取り組みます。

目標耐用年数～RC造等:60年(新築時は最大100年まで考慮)、木造:45年

課題

計画的な保全を実施し更新費用の平準化や費用の縮減を図るとともに、施設の更新を実施するにあたっては、人口減少や少子高齢化といった将来の社会状況を踏まえ、施設の必要規模、施設の統廃合や複合化などを検討し、計画的に進めます。